

【学校名】美深町立美深小学校
【活動の名称】 縦割りの班活動
【活用した資源】全校児童
【対象学年と活動の時期】全学年 通年

(項目アー観点②絆づくり)

【活動の概要】
 ○全校児童で縦割りの班を編成し、交流活動を行う。
 ○教師の適切な指導のもとに、児童の主体的・自治的な活動を行う。

【ねらい】
 ・異学年集団の活動を通して、協力し合う心や思いやりの心を育てる。
 ・それぞれの学年の発達段階に応じた役割を果たすようにする。

【活動の流れ】
 ①美小っ子集会 年4回(うち1回を音楽集会とする)
 ・児童会を中心に縦割りの班による関わりを深めるための集会を行う。
 <6月に行った七夕集会のプログラム>

- | | |
|-----------|-------------|
| ①始めの言葉 | ④全校合唱「七夕の歌」 |
| ②児童会代表の挨拶 | ⑤校長先生からのお話 |
| ③七夕〇×クイズ | ⑥終わりの言葉 |



【縦割りの班「七夕集会」の様子】

②縦割りの班清掃
 ・毎週月曜日(期間:5月下旬から解散式まで)に行う。
 ・班のメンバーを3グループに分け、学期ごとにローテーションで行う。
 ・仁宇布小学校との交流学习が重なっている場合は、一緒に清掃を行う。



【縦割りの班清掃活動の様子】

③縦割りの班スポーツ大会
 ・体育委員会の主催による縦割りの班サッカー大会やドッジボール大会などを開催し、実施後には表彰を行うことを通して活動に対する満足感の醸成に努めた。



【児童会体育委員会による企画と表彰の様子】

縦割りの班対抗ドッジボール大会
2016.11.25
体育委員会

☆日時 12月7日(木)2日(金)5日(月)6日(火)7日(水)8日(木)
 ☆会場 体育館の入り口側(低学年)とステージ側(高学年)
 ☆試合形式のやり方 低学年と高学年にわかれてトナメント方式
 ☆試合時間 低学年8分 高学年10分
 ◎使用するボールは、わが校のミニバレーボール。
 ◎③外野が少なくて、勝ちやすいミニバレーボール。
 ◎④引継ぎは、各チームの代表者がジャンケンして勝つを決める。
 ◎⑤低学年は、先生の指導でジャンケンして勝つ。
 ◎⑥高学年は、班長がジャンケンして勝つ。
 ◎⑦外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑧外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑨外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑩外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑪外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑫外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑬外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑭外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑮外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑯外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑰外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑱外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑲外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎⑳外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉑外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉒外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉓外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉔外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉕外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉖外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉗外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉘外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉙外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉚外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉛外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉜外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉝外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉞外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㉟外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊱外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊲外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊳外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊴外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊵外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊶外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊷外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊸外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊹外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊺外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊻外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊼外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊽外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊾外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。
 ◎㊿外野は、ボールを打たないで、ボールを打つ。



【縦割りの班ドッジボール大会の様子】

【本活動における成果等(留意点を含む)】
 ○児童の豊かな心を育てる観点から
 ・異年齢集団の活動を通して、優しさや思いやりの心を育むことができた。
 ・活動を通して、自己の役割意識を高め、責任感を培うことができた。
 ○集団の教育力を伸長する観点から
 ・互いに学び、高め合うとともに、豊かな人間性を育むことができた。
 ・上級生が下級生の面倒を見たり、下級生が上級生を信頼し尊敬したりするなど、お互いに高め合う姿勢を培うことができた。

【学校名】天塩町立天塩小学校
【活動の名称】 「チャレンジデー（放課後タイム）の充実」
【活用した資源】全教職員、全学年分の検定用紙等
【対象学年と活動の時期】全学年 通年

(項目ア—観点①居場所づくり)

【活動の概要】

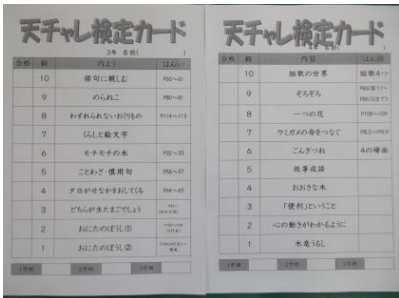
- 放課後15分間、児童の苦手とする音読や計算に対する学習サポートを全校で取り組む。
- 週に1回「チャレンジデー」を設定し、算数検定や音読検定の時間とする。
- 学期末に、学年ごとに音読発表会を行う。
※音読検定とは、教科書の音読に合格することで、級をもらうことができる取組で、10級から1級まで設定し、算数検定は、問題を用意しその中で好きな級に取り組めるよう設定している。

【ねらい】

- 励まし合い、競い合いながら取り組むことで互いを認め合うとともに、意欲を高めて学習に取り組むことで、充実感・達成感を味わいながら学力向上を目指す。〈児童〉
- 複数体制（各学級2～3名）で指導し、児童が見守られているという安心感・充実感を味わえる機会にするとともに、児童の取組状況を把握しながら、個別のサポートを目指す。〈教師〉

【活動の流れ】

- ①毎日の朝学習の時間のうち、週2回を音読検定の練習時間として設定する。
- ②月1回の音読検定と検定ウィークの時間に、学級担当のところで音読を発表する。その際、声の大きさやスラスラ読めているかをチェックする。
- ③検定に合格したら、次の級の練習をする。
- ④学期末（年3回）に、各学年による発表会を行う。



〈検定カード(3～4年生)〉



〈1年生の音読発表の様子〉



〈2年生の音読発表の様子〉



〈3年生の音読発表の様子〉



〈4年生の音読発表の様子〉



〈5年生の音読発表の様子〉



〈6年生の音読発表の様子〉

【本活動における成果等(留意点含む)】

- 検定という形をとることで、頑張りが合格につながるという達成感や、発表会を行うことでその頑張りをもみんなに認めてもらえるという充実感などが、児童の意欲を高める効果につながった。〈児童〉
- 算数検定では、学年の垣根を取り払い好きな教室で学習できるようにしたことで、仲間意識が以前よりも育ち、仲良く活動する様子が見られた。〈児童〉
- 複数体制で指導することを通じて、学級担任だけでなく、様々な先生方が各学級の様子や実態を把握するとともに、全教職員がチームとして取り組むことができた。〈教師〉

【学校名】 枝幸町立枝幸小学校
【活動の名称】 異年齢活動の取組
【活用した資源】 児童会活動
【対象学年と活動の時期】 全学年 5月～

(項目イー観点②絆づくり)

【活動の概要】

- ・縦割り班での清掃活動(5月、11月)
- ・縦割り班対抗で全校遊びを行う。

【ねらい】

- ・異学年交流をすることで思いやりの心を育み、他学年との関わりを広げたり深めたりする。
- ・6年生はリーダーとしての役割を自覚し、果たすことにより自己肯定感や自己有用感を高める。
- ・縦割り清掃や全校遊びを通して、相手を思いやる気持ちや互いのよさを認め合う態度を育てる。

【活動の流れ】

①5月の全校朝会で自己紹介(顔合わせ)を行う。



<縦割り班の顔合わせ>

初めてで緊張したけれど、上級生が声をかけてくれて、うれしかったです。

②5月に縦割り清掃を行う。(2週間で5～6回)



<上級生が下級生の良いお手本に>

いつもと違う場所をみんなで掃除して、楽しかったです!

6年生がほうきの使い方を教えてくれて、上手に掃除できました!



<お互いのがんばり発表>

③児童会企画で、縦割りを使った全校遊びを行う。(年数回)



<盛り上がる全校遊び>

他の学年の人とも、もう緊張しないよ!

1年生も上手になったね!

掃除の仕方を正しく伝えられたので良かったです。毎回、他の学年と協力できて良かったです!

④11月に2回目の縦割り清掃を行う。



<協力して清掃!>

【本活動における成果等(留意点を含む)】

- ・異学年交流をすることで、同学年以外にも目を向けたり、思いやりの心や仲間意識を高めたりすることができた。
- ・下級生の面倒を見ながら一緒に活動することにより、高学年としての自覚を高める様子が見られた。
- ・低・中学年は、高学年のよさを学び、高学年としてのあるべき姿を知ることができた。

【学校名】 枝幸町立枝幸小学校
【活動の名称】 地域とふれあう活動
【活用した資源】 ハマナス大学
【対象学年と活動の時期】 3年生 6月～2月

(項目ウ—観点②絆づくり)

【活動の概要】
・ハマナス大学の方と、花壇づくりや凧づくりなどを通して交流する。

【ねらい】
・地域の方との交流を通し、様々な体験ができることに感謝し、自分なりの感謝の気持ちを表現することができる。

【活動の流れ】
①花壇づくりを通して、ハマナス大学の方と交流する。



はまなす大学のみなさん、花壇の作り方を教えてくれてありがとうございました。

花植など、とても楽しかったです。また来年も、子ども達としたいですね。

<花壇づくり>

②ハマナス大学の方に感謝の手紙や、学校行事への招待状を書く。
③凧づくりを通して、ハマナス大学の方と交流する。



丁寧に教えてくれたので、難しいところも上手にできました。

凧を作っている時、外で飛ばすのがとても楽しみでした。

<グループに分かれて、凧づくり>

④感謝の意を込めて交流発表会を開き、給食を一緒に食べる。



嬉しい招待状や、ステキなカードを頂きありがとうございました。
これからも元気で楽しく学校生活を過ごしてね！！

<会話を楽しみながらの給食>

【本活動における成果等（留意点を含む）】

- ・地域の方との交流を通して、認められたり褒められたりしたことにより、自己肯定感や思いやりの心が高まった。
- ・地域の方と積極的にコミュニケーションを図ろうとしている様子が見られ、感謝の気持ちを表せるようになった。
- ・子どもだけではなく、地域の方にも楽しく参加してもらえるような工夫をして、活動に取り組むことが大切である。